

サレジアン国際学園中学校 令和7年度 中学3年生 社会 I ルーブリック

学年/コース		中3/本科・SG		教科/科目		公民		時間数		週3時間	
5月末まで											
単元名		第2章 1節 人権と日本国憲法						使用教材			
単元の概要		我々の生活の根幹を定める日本国憲法における、その制定経緯・内容・抱える問題について多角的に分析、考察する。						『新しい社会 公民』(東京書籍)			
評価規準						単元内容					
究	A3 日本国憲法の基本理念および幾つかの問題点を現代の実生活と結びつけて考察できる。		B3 日本国憲法の理念や抱える問題点を我々の実生活と結びつけて論理的に説明できる。		C3 当該単元に対して考察が創造的で独自性がある。また、PBL型授業、定期試験において、考えが創造的かつ独自性がみられる。		○PBL型授業(「自由」と「法(規則)」の共存) ○憲法の大観 ○大日本帝国憲法の成立過程 ○大日本帝国憲法の内容 ○敗戦の歴史と日本国憲法 ○日本国憲法の理念 ○日本国憲法の内容 ○二つの憲法の違い ○PBL型授業(日本国憲法の問題点) ※ 第1章については、第2章から第5章のそれぞれへの導入として、現代の課題を時事問題によって授業内で随時取り上げて進める。				
	活	A2 戦後成立した日本国憲法が抱える課題の要因・経過・近未来の展望を理解している。		B2 戦後成立した日本国憲法が抱える課題の要因・経過・近未来の展望を論理的に説明できる。		C2 設問に対して多角的に分析する力がある。また、PBL型授業、定期試験で、自分の考えを多角的に検討し、回答している。					
礎		A1 人権の歴史と日本国憲法とその沿革、及び前段階である大日本帝国憲法について、特色を理解している。		B1 人権の歴史と日本国憲法とその沿革、及び前段階である大日本帝国憲法について、特色を論理的に説明できる。		C1 当該単元に対して興味や意欲を持ち、疑問を整理できている。また、PBL型授業、定期試験で、考えを論理的に表現できる。		〈留意点・評価〉			
	知性・知識		応用・発展		創造的思考		〈留意点〉 ○人権思想の発達について、近現代の歴史的分野を適宜扱う 〈評価〉 ○授業内での活動と各学期に一回の定期試験によって評価する				

サレジアン国際学園中学校 令和7年度 中学3年生 社会 I ルーブリック

学年/コース		中3/本科・SG		教科/科目		公民		時間数		週3時間	
6月から1学期期末まで											
単元名		第1章 2節 人権と共生社会						使用教材			
単元の概要		日本国憲法の内容を踏まえ、近現代の人権論や日本を含めた人権の取り扱いの実情について多角的に分析、考察する。						『新しい社会 公民』(東京書籍)			
評価規準						単元内容					
究	A3	B3	C3	○PBL型授業(現代における個人の権利の衝突) ○人権の歩んできた歴史 ○人権の具体例(平等権) ○人権の具体例(自由権) ○人権の具体例(社会権) ○人権の具体例(参政権など) ○「公共の福祉に反しない限り」 ○国民の義務 ○近年認められている人権 ○世界の人権の実情 ○PBL型授業(新しい人権の必要性)							
	「基本的人権についての数多くの課題」を世界のテーマとして大局的に答えを持っている。	「基本的人権についての数多くの課題」を世界のテーマとして、事例をもとに答えを持っている。	考察が創造的で独自性がある。 また、PBL型授業、定期試験での、考えが創造的で独自性がある。								
活	A2	B2	C2	○「公共の福祉に反しない限り」 ○国民の義務 ○近年認められている人権 ○世界の人権の実情 ○PBL型授業(新しい人権の必要性)							
	基本的人権を巡る世界的課題の要因・経過・近未来の展望を理解し、独自の見解を持っている。	基本的人権を巡る世界的課題の要因・経過・近未来の展望を論理的に説明できる。	問いを多角的に分析する力がある。 また、PBL型授業、定期試験で、自分の考えを多角的に検討し、回答している。								
礎	A1	B1	C1	〈留意点・評価〉 〈留意点〉 ○近現代の歴史的分野を適宜扱う 〈評価〉 ○授業内での活動と各学期に一回の定期試験によって評価する							
	基本的人権の概要と沿革、重要性について基礎的な内容を理解している。	基本的人権の概要と沿革、重要性について、日本での事例を中心に論理的に説明できる。	当単元について興味や意欲を持ち、疑問を整理できている。 また、PBL型授業、定期試験で、考えを論理的に表現できる。								
	知性・知識	応用・発展	創造的思考								

サレジオン国際学園中学校 令和7年度 中学3年生 社会 I ルーブリック

学年/コース		中3/本科・SG		教科/科目	公民	時間数	週3時間
2学期開始から10月末まで							
単元名	第3章 1節 現代の民主政治 2節 国の政治の仕組み(一部)					使用教材	
単元の概要	民主政治の概要と採択されている理由を理解した上で、現在の日本の民主政治について多角的に分析、考察する。					『新しい社会 公民』(東京書籍)	
評価規準				単元内容			
究	A3 民主主義の不備と選挙制度の問題点を我々の実生活と結びつけて理解している。	B3 民主主義の不備と選挙制度の問題点を我々の実生活と結びつけて独自の見解で説明できる。	C3 考察が創造的で独自性がある。また、PBL型授業、定期試験での、考えが創造的で独自性がある。	<ul style="list-style-type: none"> ○PBL型授業(少数意見の尊重と多数決原理の併存) ○民主主義の概要 ○民主主義の分類 ○選挙(制度)と政治参加 ○日本の選挙制度 ○政党と政党政治 ○マスメディアの影響 ○選挙制度の課題 ○国会とは ○国会の役割 ○PBL型授業(選挙の現状と意義) 			
	活	A2 日本の民主主義政治が抱える課題の要因・経過・近未来の展望を理解している。	B2 日本の民主主義政治が抱える課題の要因・経過・近未来の展望を独自の見解で説明できる。				
礎		A1 民主主義の性質を踏まえて、選挙制度の仕組みと国会役割についてを理解している。	B1 民主主義の性質を踏まえて、選挙制度の仕組みと国会の役割と問題点について独自の見解で説明できる。	C1 当単元について興味や意欲を持ち、疑問を整理できている。また、PBL型授業、定期試験で、考えを論理的に表現できる。	〈留意点・評価〉		
		知性・知識	応用・発展	創造的思考	<ul style="list-style-type: none"> 〈留意点〉 ○近現代の歴史的分野を適宜扱う 〈評価〉 ○授業内での活動と各学期に一回の定期試験によって評価する 		

サレジアン国際学園中学校 令和7年度 中学3年生 社会 I ルーブリック

学年/コース		中3/本科・SG		教科/科目	公民	時間数	週3時間
10月から2学期期末試験まで							
単元名	第3章 2節 国の政治の仕組み(一部) 3節 地方自治と私たち					使用教材	
単元の概要	行政、裁判所についてを理解した上で、我々に最も近い政治の場である地方自治について多角的に分析、考察する。					『新しい社会 公民』(東京書籍)	
評価規準				単元内容			
究	A3 政治の仕組みと政治に参加する重要性を我々の実生活と結びつけて理解している。	B3 政治の仕組みと政治に参加する重要性を我々の実生活と結びつけて論理的に説明できる。	C3 考察が創造的で独自性がある。また、PBL型授業、定期試験での、考えが創造的で独自性がある。	○PBL型授業(一国のリーダーとしての首相の資質) ○内閣とは ○行政の役割 ○裁判所の仕組み ○裁判と裁判所の種類 ○令状主義 ○裁判員裁判 ○三権分立 ○地方自治の特色 ○地方議会と首長 ○地方公共団体の課題 ○政治参加(地方自治) ○PBL型授業(地方自治の必要性)			
	活	A2 日本の政治参加における課題について、その要因・経過・近未来の展望を理解している。	B2 日本の政治参加における課題について、その要因・経過・近未来の展望を論理的に説明できる。				
礎	A1 国の政治の仕組みと地方の政治の仕組みを関連付けながら理解している。	B1 国の政治の仕組みと地方の政治の仕組みを関連付けながら論理的に説明できる。	C1 当単元について興味や意欲を持ち、疑問を整理できている。また、PBL型授業、定期試験で、考えを論理的に表現できる。	〈留意点・評価〉			
	知性・知識	応用・発展	創造的思考	〈留意点〉 ○近現代の歴史的分野を適宜扱う 〈評価〉 ○授業内での活動と各学期に一回の定期試験によって評価する			

サレジアン国際学園中学校 令和7年度 中学3年生 社会 I ルーブリック

学年/コース		中3/本科・SG		教科/科目	公民	時間数	週3時間
3学期期末試験まで							
単元名	第4章 第1節 消費生活と経済 第2節 生産と労働 第3節 市場経済の仕組みと金融 第4節 財政と国民の福祉 第5章 1節 国際社会の仕組み2節 さまざまな国際問題 3節 これからの地球社会と日本					使用教材	
単元の概要	我々の生活の中に根付く消費と経済の関わり合いと、国内外の経済の関連を国際問題を含めて考察し理解する。					『新しい社会 公民』(東京書籍)	
評価規準				単元内容			
究	A3	B3	C3	○PBL型授業(資本主義経済と社会主義経済の相違) ○国連の仕組みと問題点 ○国際法とは(国連憲章中心) ○PBL型授業(戦争の法) ○国際安全保障法とは ○武力紛争法と戦争の実態 ○PBL型授業(グローバル化とナショナリズム) ○宗教的イデオロギーと国際政治 ○国際政治に影を落とす帝国主義 ○国際政治における日本の役目 ○世界市民とは			
	経済の仕組みと法律・政治分野における世界的課題について自分事として捉え、理解している。	経済の仕組みと法律・政治分野における世界的課題について自分事として捉え、論理的に説明できる。	国際分野において経済と政治の関わり合いを考察しについて創造的で独自性がある。また、PBL型授業、定期試験での、考えが創造的で独自性がある。				
活	A2	B2	C2	○宗教的イデオロギーと国際政治 ○国際政治に影を落とす帝国主義 ○国際政治における日本の役目 ○世界市民とは			
	経済の仕組みと法律・政治分野における世界的課題について要因・経過・近未来の展望を理解している。	経済の仕組みと法律・政治分野における世界的課題について要因・経過・近未来の展望を論理的に説明できる。	経済と国際問題の関わりについて、問いを多角的に分析し。また、PBL型授業、定期試験分の考えを多角的に検討し、回答している。				
礎	A1	B1	C1	〈留意点・評価〉			
	経済の仕組みと法律・政治分野における世界的課題について日本に暮らす者の視点を持ちながら現状を理解している。	経済の仕組みと法律・政治分野における世界的課題について日本に暮らす者の視点を持ちながら現状を論理的に説明できる。	当単元について興味や意欲を持ち、疑問を整理できている。また、PBL型授業、定期試験で、考えを論理的に表現できる。	〈留意点〉 ○経済とは身近な社会の仕組みであること理解する。 ○国際問題の根底には政治と経済の関りが深いことを理解する。 〈評価〉 ○授業内での活動と各学期に一回の定期試験によって評価する			
	知性・知識	応用・発展	創造的思考				